

国際連合安全保障理事会公開討論「エネルギー、安全保障、気候」について

日時：2007年4月17日

場所：ニューヨーク国連本部

議長：ベケット英国外相

出席者：バン・キムン事務総長、スロバキア・イタリア・ドイツ・オランダ及びモルディヴから閣僚級が出席したほか、日本を含め合計55カ国がスピーチを行った。

(※安全保障理事会において、気候変動問題が取り上げられたのは初めてのこと)

公開討論のポイント：

- ほぼ全ての国が気候変動問題の重要性を強調し、多くの国が IPCC 報告やスターン・レビューを引用しつつ、問題の緊急性を訴えた。
- 我が国を含む先進国と小島嶼国の多くが、気候変動は深刻な問題であり、資源の希少化、難民の増加などにより紛争の原因となりうることを指摘した。また、安保理での議論を歓迎し、気候変動への国際社会の取り組み強化を訴えた。
- 米国は、気候変動問題の重要性を強調し、自国の気候変動対策を紹介するとともに、ガバナンスの重要性を強調した。
- 中国・インドを含むほとんどの途上国は、気候変動問題は UNFCCC 等の場で議論されており、安保理には専門知識もなく、マンデート外で、議論する場として不適當であり、今後継続して議論することに反対した。また、「共通だが差異のある責任」に基づいて先進国が温室効果ガス排出削減や能力向上を支援することを主張した。